

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

4面

社内報アワード2026で
「Minorinote」が躍進
(広報・調査部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

7面

第7回JAイノベーターズブートキャンプ
修了報告
(AgVenture Lab)



配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.cloud.microsoft/r/uvWgU72VtZ>

全農

ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

耕種総合対策部

「91農業」推進へ三幸学園と連携協定

農業と教育をつなぐ取り組みを全国へ



協定を結んだ全農の日比健常務（左）と三幸学園の鳥居敏理事長（右）



「91農業」は、「暮らしの中に農的生活を1割取り入れませんか？」をコンセプトに、会社員、学生、子育て中の人など、さまざまな人が自分の生活に合った形で農業に関わり、地域の農業や食を応援する取り組みです。

両者はこれまで、宮城県を中心に農業に関する出前授業や収穫・就業体験、鳥獣被害対策、国産農畜産物を活用した伝え方や支援方法を学ぶ人材育成の場となっています。

本協定を契機として、今後は、宮城県での取り組みをモデルに、専門学校、高等学校、通信制高校、支援学校などとの連携を全国へ広げ、商品・メニュー開発や労働力支援なども検討し、次世代を担う人材の育成と地域農業の活性化につなげていきます。

全農と学校法人三幸学園は、「91農業」の推進と食農教育の充実・拡大を目的に連携協定を締結しました。宮城県で進めてきた農業体験や商品開発などの取り組みを基に、地域や学校の特色を生かした全国展開を目指します。

秋田県本部

「荷物専用新幹線」で届ける秋田の味

県産農産物を埼玉県の新Days3店舗で販売



NewDaysで県産農産物を販売



輸送で活用した荷物専用新幹線

秋田県産農産物の輸送体制強化に向けた試験的な取り組みとして、JR東日本グループ、JA全農青果センター（株）、全農物流（株）と連携して実施。E3系新幹線の客室を荷物専用に変更した「荷物専用新幹線」による試験輸送を行いました。

秋田から届いた商品は、事前に販売を告知したうえで、駅構内のNewDays武蔵浦和店、南浦和店、川口中央店で販売。当日は、商品到着後の午後5時ごろから、あきたフレッシュ大使も店頭に立ち、県産農産物の魅力をPRしました。雨天にもかかわらず多くの来店者が商品を手に取り、用意した農産物は完売しました。

秋田県本部は9月8日、JR東日本グループや全農グループの関係会社と連携し、秋田県産のエダマメ、桃、シタケ、ジューズ類を荷物専用新幹線で輸送し、埼玉県内のNewDays3店舗で即日販売しました。

麦類農産部

実需者がJAこしみずで馬鈴しょ収穫研修

国産馬鈴しょでん粉の安定供給へ産地課題を共有

全農は、北海道のJAこしみず、ホクレン、実需者を参加者としたでん粉原料用馬鈴しょの収穫研修を実施しました。参加者は収穫作業の体験やでん粉工場の視察、意見交換を通じて、産地課題や安定供給に向けた取り組みへの理解を深めました。

研修は9月24～26日に小清水町で実施しました。馬鈴しょでん粉の産地は、気象変動や生産基盤の変化など安定供給を目指す上で、さまざまな課題に直面しており、生産者と実需者が相互理解を深め、産地課題を共有する重要性が高まっています。

馬鈴しょでん粉の実需者である松谷化学工業(株)(兵庫県)



JAこしみず管内の輪作体系について説明を受ける参加者



収穫した馬鈴しょの機上選別研修

が同JAを訪れ、ホクレンも交えて収穫体験や生産者と意見を交わし、産地の現状や課題への理解を深めました。でん粉工場では原料馬鈴しょの集荷からでん粉製造までの流れを学びました。

全農は、生産者と実需者の相互理解を促進し、国産馬鈴しょでん粉の生産振興と安定供給に取り組んでいきます。

畜産総合対策部

和牛の魅力を発信し消費拡大へ

JA全農×ニッポンハムプレゼンツ 一球牛魂! 和牛Dayを開催!

全農は9月19日、エスコンフィールドHOKKAIDOでの北海道日本ハムファイターズ対オリックス・バファローズ戦で、「JA全農×ニッポンハムプレゼンツ 一球牛魂! 和牛Day」を開催。約3万2000人の来場者へ和牛の魅力を広く発信しました。

本イベントは2026年度和牛消費喚起キャンペーンの一環として実施し、日本ハム株式会社との共催は今回で3回目となります。和牛の魅力発信と消費拡大を目的にさまざまな企画を展開しました。

試合前の記念品贈呈では、全農の齊藤良樹代表理事専務が北海道産黒毛和牛ローストビーフ、日本ハムの前田文男代表取締役社長はシャウエッセンを北海道日本ハムファイターズの選手へ贈呈しました。

始球式には、JAタウンオ



選手へ記念品の贈呈



秋元真夏さんによる始球式

全農は今後も多くの人に和牛を身近に感じてもらえるよう取り組んでいきます。

また、この日も食堂を利用する30人を招待し、和牛弁当を提供するなど、幅広い世代へ和牛の魅力を発信しました。

フィシャルサポーターの秋元真夏さんといえー太が登場。会場では、キッチンカーやラウンジで計約2200人に北海道産和牛の試食を提供したほか、オリジナルうちわの配布や和牛への理解醸成を目的としたパネル展示、フォトスポットの設置を行いました。さらに、

広報・調査部

社内報アワード2026で「Minorinote」が躍進

5作品受賞の快挙を達成



ゴールド賞を受賞した「次はあなたの現場へ理事長が行く!」

全農グループ広報誌「Minorinote」が「社内報アワード2026」の企画部門でゴールド賞を受賞しました。経営と現場をつなぐ企画力や、タイムリーな情報発信が高く評価されました。

「社内報アワード2026」

は国内最大級の社内報コンクールで、今回ゴールド賞1作品、シルバー賞2作品、ブロンズ賞2作品の計5作品を受賞しました。

企画部門では、桑田義文理理事長が全国の事業拠点を訪問し、職員・社員との対話を通じて相互理解を深める連載企画「次はあなたの現場へ理事長が行く」がゴールド賞を受賞しました。経営と現場をつなぐ取り組みとして高く評

価され、部門第2位の評価を獲得しました。

冊子部門では「Minorinote 2026年冬号」がシルバー賞を受賞しました。「お米の今を知り、未来を考える」を特集テーマとし、米を取り巻く情勢や全農の役割を分かりやすく伝えた点が評価されました。大手・上場企業を含む多数の応募作品の中で、冊子部門第5位の評価を受けました。

「Minorinote」は今後も、全農グループで働く職員・社員一人ひとりの挑戦や想いを伝え、エンゲージメントの向上とグループの一体感醸成につながる誌面づくりに取り組んでいきます。

※「社内報アワード」は、ウイズワークス(株)が2002年から主催する、優れた社内報や社内コミュニケーション施策を表彰するコンクールです。

広報・調査部

秋の田んぼで稲刈り体験&生きものの調査

35種の生きものの発見、田んぼの多面的機能を学ぶ



生きものを観察

このイベントは、子どもたちが「農」や「食」の大切さと、田んぼが果たす多面的機能への理解を深めてもらうことを目的に開催しています。

参加者は生産者や講師の指導のもと、鎌を使った稲刈りに挑戦しました。慣れない作業に苦戦しながらも、親子で協力して刈り取り、収穫の喜びを体験しました。また、講師の解説を受けながら田んぼやその周辺で生きもの調査を実施し、オケラやバッタなど35種の生きものを発見しました。

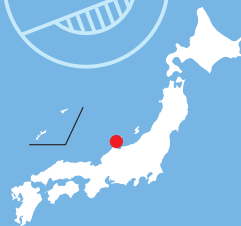
全農は10月3日、大田公民館(神奈川県伊勢原市)で「JA全農プレゼンツ2026秋稲刈り体験&生きもの調査」を開催し、14組38人の親子が参加しました。稲刈りや生きもの調査を通じて、「農」と「食」、そして水田が持つ多面的な機能について学びました。

コンバインによる収穫も見学し、農作業の効率化を支える機械の役割について理解を深めました。

その後、生きもの観察や農家による講話を実施。米づくりの過程や農業の役割について理解を深めるとともに、地域で生産された米を食べることが、生きものを育む田んぼを守ることに繋がることが学びました。参加者からは「農家の皆さんが心を込めて作っているお米をもっと大切に食べたい」「田んぼにたくさん生きものがあることを初めて知った」といった感想が寄せられました。



刈った稲を手にする参加者



西垣匠さんがアンバサダーに

石川県農畜産物の魅力を全国へ

石川県本部は、石川県白山市出身の俳優・西垣匠さんを「JA全農いしかわアンバサダー」に任命しました。今後、西垣さんとともに、節目を迎えた米「ひやくまん穀」や高級ブドウ「ルビーロマン」、復興に取り組む「能登牛」など、県産農畜産物の魅力を全国へ発信します。

県産の価値、復興への歩み情報発信

石川県の農畜産物は今年、それぞれ大きな節目を迎えています。県オリジナル品種「ひやくまん穀」は市場デビュー10年目を迎えました。

大粒で食べ応えのある食感と豊かなうま味、冷めても変わらないおいしさが特

長で、石川県を代表するブランド米として全国にファ

ンを広げています。「ルビーロマン」は研究会設立

20周年を迎えました。生産者や関係機関の長年の努力により、国内外で高い評価を得るブランドへと成長しています。石川を代表するブランド牛「能登牛」は、2024年の能登半島地震の影響を受けながらも、生産者が復興に向けて歩みを進めています。石川県本部では、こうした県産農畜産物の価値や産地の取り組みを広く知っていただくため、情報発信の強化に取り組んでいます。

「生産者の思いを届けたい」と抱負

このような中、7月に開催した「ひやくまん穀生産者大会」「ルビーロマン研究会設立20周年

記念式典」では、西垣さんからビデオメッセージが寄せられました。メッセージでは、石川県産農畜産物のおいしさや生産者の思いをより多くの方々へ届けたいこと、生産者と消費者をつなぐ橋渡し役として活動していきたいという意気込みが語られました。西垣さんは9月25日、ファーマーズAコープ北安田店で開かれた26年産「ひやくまん穀」の新米発売イベントに参加しました。トークショーを通じて、石川県産農畜産物への思いやふろさと石川への愛着も語り、多く

の来場者でにぎわいました。

同県本部では、直営店舗「肉匠Jade金澤」や「ひやくまんぞく亭」、SNS、各種イベントなどさまざまな媒体を活用し、県産農畜産物の魅力発信を進めています。今後も西垣さんをはじめ、生産者やJA、関係機関と一体となり、県産農畜産物の認知度向上と消費拡大に取り組んでいきます。

西垣匠さんが能登牛をPR



「ひやくまん穀」生産者大会



「ひやくまん穀は今年でデビュー10年目！」

研究会設立



「ルビーロマン」初せり



「ルビーロマン」栽培講習会

祝 150億円達成記念式典

農産物販売高
常総ひかり農業協同組合



J A 常総ひかりは、茨城県南西部の常総市、下妻市、八千代町の2市1町を管内とする J A です。関東平野の中央に位置し、年間平均気温13℃、14度、年間降水量1300mm、前後という温暖で恵まれた気象条件のもと、農業が盛んです。J A ではメロンや梨をはじめ、多種多様な青果物を生産しており、なかでもハクサイは日本一の生産量を誇り、県の銘柄産地に指定されています。2024年度の農産物販売高は158億円を記録し、過去最高を達成しました。

自己改革と一元販売の推進

J A では2022年度から「農業者の所得増大」を掲げた自己改革プロジェクトを推進しています。10年、20年先も組合員の負託に応えるべく、中長期

消費拡大への取り組み

消費拡大にも注力しており、白菜部会連絡協議会と協力して「白菜のうた」を制作し、親しみやすいメロディーでハクサイの魅力を発信しています。また、



秋冬ハクサイ目ざろえ会で出荷規格を統一

的な運営や施設の再編を検討してきました。その一環として、合併 J A のスケールメリットを生かした「一元販売」にも注力しています。2024年にはネギ、2025年にはキャベツとハクサイで全地区統一の販売体制をスタートさせました。

持続可能な農業の実現へ



持続可能な地域農業の実現を目指し、関係自治体の首長と連携を深める

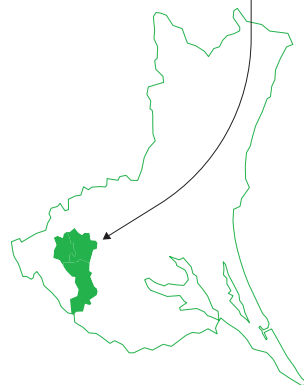


「白菜のうた」に合わせダンスを披露

JA Zoom in

ズームイン 茨城県 J A 常総ひかり

ハクサイ生産量日本一の産地が挑む一元販売



概要	2026年1月31日 現在
正組合員数	9440人
准組合員数	5869人
職員数	395人
販売品取扱高	157億4千万円
購買品取扱高	57億5千万円
貯金残高	1677億円
長期共済保有高	3737億3千万円
主な農産物	ハクサイ、梨、メロン、米、ネギ、キュウリ、ズッキーニ、肉豚など

第7回「JAイノベーターズ ブートキャンプ」修了報告

JA
Innovator's
Boot Camp

チームで練り上げた新規事業案を発表

JAグループ全国組織8団体が共同で設立したAgVenture Lab(アグベンチャーラボあくラボ)は8月21日、第7回「JAイノベーターズブートキャンプ」最終発表会を行いました。今期は、7月3日、8月21日に計7回実施し、JA全中、JA共済連、農林中金、家の光協会、日本農業新聞、農協観光、JA新潟電算センター、JA全農から計15人が受講し、毎回、白熱の議論が展開されました。



チームで練った新規事業案を発表

「全国組織人材育成研修」の流れをくむプログラムです。新規事業案作成・発表を通じて、次代のJAグループをけん引する人材に必要な「イノベータースピリッツ」の体得を目的としています。今期は「10年後のJAグループが導入しているべき新サービス」をテーマに、他組織混成チームで取り組みました。研修では、アクセラ8期採択のSPACECOOLや、アグリビジネス投資育成などによるメンタリングを受け、チームの中で議論を重

ね、新規事業案を何度も練り直し発表に挑みました。

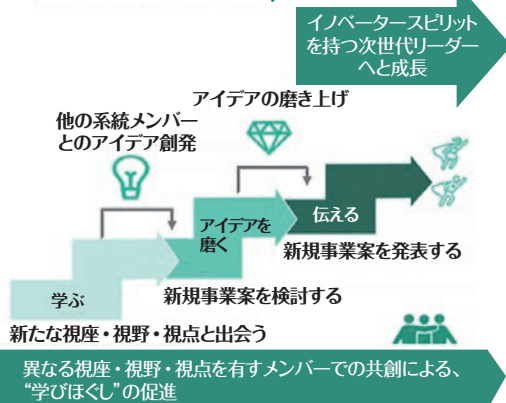
最終発表会では、全農の尾本英樹専務ら全国8連の役員に向けて、斬新なアイデアを発表しました。発表会後のネットワーキングでは、チームで進める中での苦労や課題について受講者が率直に語り、役員はその声に耳を傾け、これまでの挑戦をねぎらうとともに、今後への期待を寄せました。2か月間共に学んだ仲間たち、今後も連携しJAグループをけん引してくれることを期待します。



発表プラン

- JAアグリシング 農業の未来を語るJAへ
- 卒農コンシェルジュ 農家人生に誇れる節目を
- アグリアカデミー開講宣言 学びの力で、未来の就農へ

JA Innovator's Boot Camp 全体像



受講者アンケート

とても大変だった分、自分のスキルアップを実感し、事業を立ち上げることが楽しいと感じられた

自らを見つめ直し、仲間と作り上げる価値の大切さを痛感した

自分の知らない新しい世界が見えた

参加前に想定していたよりも大変でしたが、JAグループの方々とのグループワークを通じて知見を大きく広げることにつながった



チームでアイデアを検討

JA全農親子
農業体験ツアー
2026ファミリーマートと
ニッポンエール
コラボ

ねっとり、甘みを前面に 国産「焼きいも」を発売

全農と資本業務提携先である(株)ファミリーマートは、商品共同開発の一環で産地と連携した国産サツマイモの消費拡大を目的に「ニッポンエール 焼きいも」を10月20日より、全国のファミリーマート(約5600店舗 ※沖縄県除く焼きいも専用什器設置店が対象)にて発売します。【営業開発部】

商品は、茨城県、千葉県、鹿児島県、北海道など、JAグループのサツマイモ主力産地と連携して原料供給を進め、ニッポンエール商品として発売します。近年、サツマイモの品種の中で人気の高い、ねっとり食感で甘みの強い品種を使用することで、国産の魅力を発信していきます。

今後も、ファミリーマートと連携した商品開発を通じ、国産農畜産物の価値・魅力を発信し消費拡大と産地振興に取り組んでいきます。

ニッポンエール
産地を応援、みんなで応援

親子で稲刈り体験 田んぼの生きもの調査も

全農は9月19日、茨城県石岡市の朝日里山学校で「JA全農親子農業体験ツアー 2026」を開催しました。5月に参加した親子が再び集まり、自ら植えた稲の収穫や田んぼの生きもの調査、野菜収穫体験に取り組み、農業や食の大切さへの理解を深めました。【広報・調査部】

13組35人の親子が参加し、生産者の指導のもと、5月に田植えをした「コシヒカリ」の稲刈りやはざかけに挑戦しました。田んぼの生きもの調査やサツマイモ、サトイモの収穫も体験し、昼食は地元米のおにぎりやけんちん汁を味わいました。

農作業や生産者との交流を通じて、収穫の喜びを実感するとともに、食を支える農業の大切さや、農業と環境とのつながりへの理解を深めました。



一生懸命稲を刈り取る参加者

3,960円
(税込み)

かが・のと味自慢

五郎島金時
約5kg 秀L(約12~14本)

※本商品は在庫状況により、一時的にご注文いただけない場合がございます。

JA全農の産地直送
通販サイトJAタウン
ショップ紹介

石川県の加賀野菜の一つ、「五郎島金時」。甘さがあって、コッポコポ*のサツマイモ! 焼き芋にすると甘みが増します♪

日本海に面した砂丘地育ち。通気性・保水性に富む程よい大きさの砂の粒がおいしさの秘密です。石川のサツマイモの歴史は、今から約300年前の元禄時代に五郎島村のお百姓さんが薩摩から種芋を持ち帰り栽培方法を伝授したのが始まりとされています。今では「五郎島金時」として知る人ぞ知るサツマイモとなりました。

外皮は深みのある紅色で、果肉はきめこまやかです。色の美しさ、形の良さ、甘みの強さが魅力です!!

*コッポコポとは食感の良さを表す金沢の方言でホクホクした状態のこと

(JAタウンはこちら) <https://www.ja-town.com>(お問い合わせは) shop@ja-town1.comご注文は
こちらから『JA全農トピックス』の公式
Xはこちら私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。